

2022年3月期第1四半期 決算補足資料

2021年8月6日



(東証二部 9857)

連結決算概要	．．．	P. 3
品目別売上高	．．．	P. 4
業界別売上高	．．．	P. 5
バランスシート（連結）	．．．	P. 6
連結業績推移	．．．	P. 7

(単位:百万円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	増減額		前年 同四半期比	2022年3月期 業績見通し
売上高	7,534	7,614	+	80	+ 1.1%	39,000
営業利益	133	113	△	20	△ 15.4%	1,750
経常利益	146	127	△	18	△ 12.8%	1,800
親会社株主に帰属する 四半期純利益	86	68	△	17	△ 20.3%	1,170

決算の概況

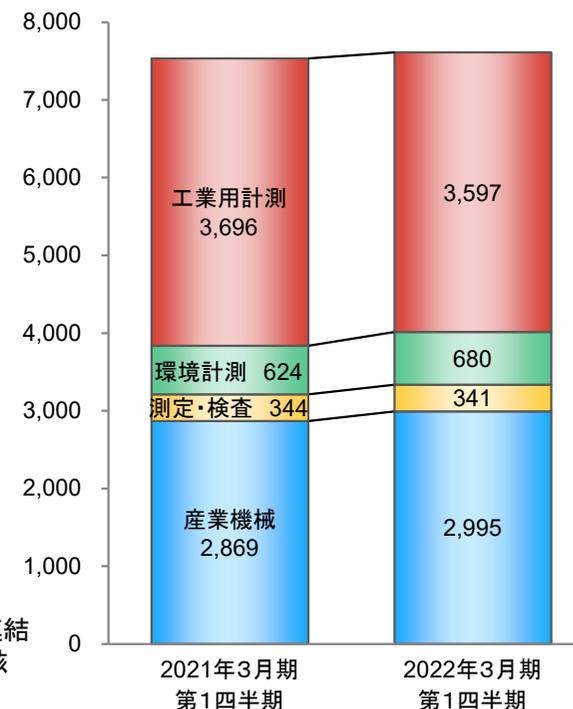
先行き不透明な景況感の中で規模の大きな設備投資には依然として消極的な企業が多い他、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、前年に引続き、営業活動において大都市圏を中心に対面営業が制限されるなどして、プラント・エンジニアリング業界、石油化学業界、鉄鋼業界向けの販売が減少しましたが、設備稼働率が高い建設機械業界や電気機器・精密機器業界向けの販売が増加しました。利益については、原価の上昇や、販売費及び一般管理費の増加に伴い減少しました。

(注) 本資料中の金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これにより、第1四半期連結累計期間の売上高は41百万円増加し、売上総利益、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ8百万円増加しております。

(単位:百万円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年 同四半期比	構成比
工業用計測制御機器	3,696	3,597	△ 2.7%	47.2%
環境計測・分析機器	624	680	+ 9.0%	8.9%
測定・検査機器	344	341	△ 0.8%	4.5%
産業機械	2,869	2,995	+ 4.4%	39.4%
合計	7,534	7,614	+ 1.1%	100.0%

(単位:百万円)



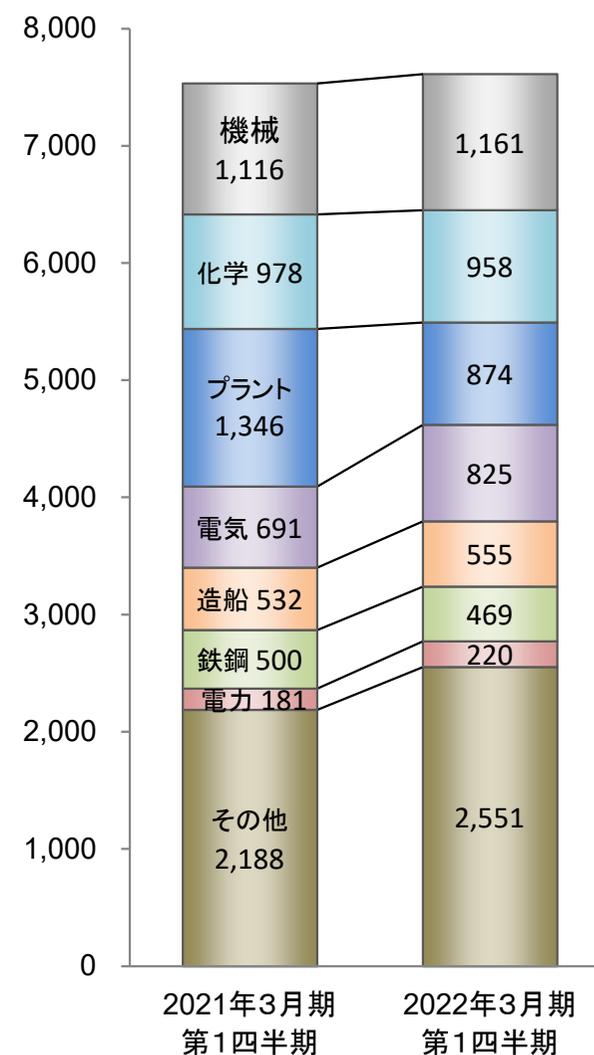
(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

増減要因

- ◆ 工業用計測制御機器** …… 生産設備の安定稼働に必要な各種計測制御機器の更新提案の他、生産性向上につながる自動化設備や各種システムの提案、増加する自然災害への対策機器の提案などに取組みました。その結果、医療用途や半導体関連用途向け需要が好調な電気機器・精密機器業界や電力業界向けに各種センサーや遠隔監視システムの販売が増加しましたが、前年同期に定期修理需要があった石油化学業界、プラント・エンジニアリング業界向けの反動減や、船用業界向けの各種センサーの販売が減少し、全体としては減少しました。
- ◆ 環境計測・分析機器** …… 企業の環境対策ニーズの一層の高まりを背景に、水質、大気、振動、騒音等の環境計測機器・分析機器の販売、またコロナ禍におけるリモートワークにも対応する各種環境測定データをリアルタイムで一元管理できる遠隔監視システムの提案などに取組みました。その結果、石油化学業界や電力業界向けに、水質計やガス検知器等の大気分析計の販売が増加し、全体としても増加しました。
- ◆ 測定・検査機器** …… 脱炭素社会に向けた次世代技術の研究開発や、製品の品質や精度の向上を目的とした各種測定検査機器の提案、製造現場のデジタルトランスフォーメーション(DX)化を推進するタブレット端末を使用した保安点検ソリューションの提案などに取組みました。その結果、自動車関連業界向けの販売は増加したものの、比較的規模の大きな設備投資となる測定検査機器の導入には未だ慎重な企業も多く、全体としては販売が減少しました。
- ◆ 産業機械** …… 社会インフラ市場や民間企業における老朽化した設備に付帯する機器の更新、循環型社会の形成につながるリサイクルプラント、エネルギーの節約や効率的な活用につながる各種機器の導入、安全対策や予防保全に関連する機器の提案などに取組みました。その結果、前年同期に大口案件などがあったプラント・エンジニアリング業界や鉄鋼業界向けで反動減があったものの、道路維持管理会社向け各種産業車両や建設機械業界向け油圧機器の販売が増加し、全体としては増加しました。

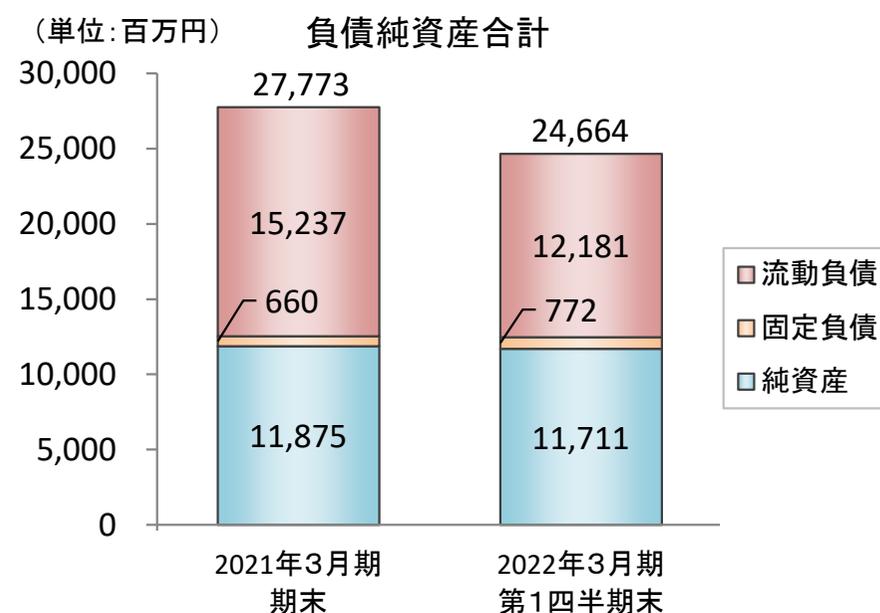
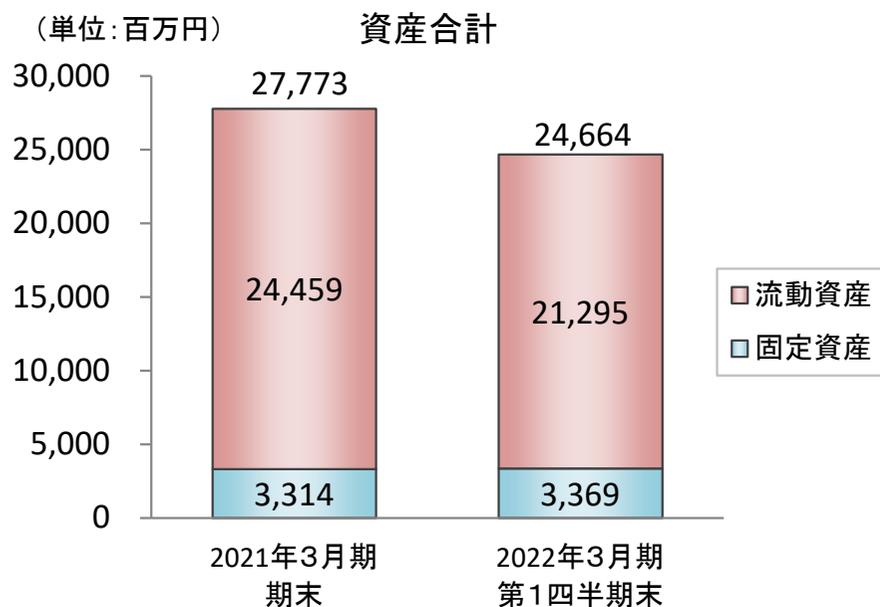
(単位:百万円)	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年 同四半期比		構成比
機械	1,116	1,161	+	4.0%	15.2%
化学	978	958	△	2.0%	12.6%
プラント	1,346	874	△	35.1%	11.5%
電気	691	825	+	19.4%	10.8%
造船	532	555	+	4.3%	7.3%
鉄鋼・ 非鉄金属	500	469	△	6.2%	6.2%
電力	181	220	+	21.3%	2.9%
その他	2,188	2,551	+	16.6%	33.5%
合計	7,534	7,614	+	1.1%	100.0%

(単位:百万円)



(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

バランスシート(連結)



2022年3月期第1四半期 ハイライト(カッコ内は前期比)

自己資本比率 : 47.5% (2021/03時点 42.8%)

資産

【増減の主な要因】

(単位:百万円)

◆受取手形、売掛金及び契約資産:	11,133(△3,848)	} 売上債権の回収が進んだことにより減少しました
◆電子記録債権:	2,287(+188)	
◆現金及び預金:	6,681(+228)	

負債・純資産

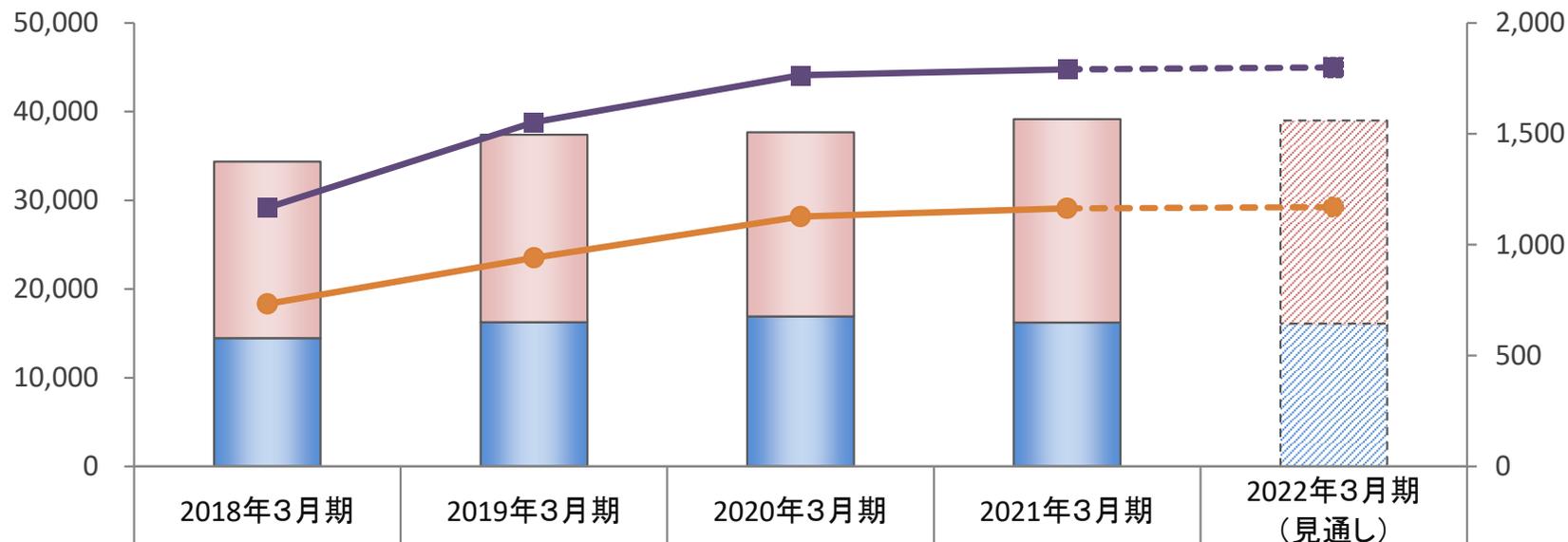
【増減の主な要因】

(単位:百万円)

◆支払手形及び買掛金:	4,414(△3,079)	} 仕入債務の支払いが進んだことにより減少しました
◆電子記録債務:	6,406(+770)	
◆純資産:	11,711(△164)	四半期純利益68百万円があった一方で、配当の支払い215百万円等により減少しました

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。また、収益認識会計基準等の適用により、利益剰余金の期首残高が△22百万円減少したことにより純資産が減少しております。

(単位:百万円)



3~4Q売上高(左軸)	19,888	21,143	20,758	22,926	22,900
1~2Q売上高(左軸)	14,479	16,251	16,924	16,232	16,100
売上高	34,367	37,394	37,682	39,159	39,000
経常利益(右軸)	1,167	1,552	1,765	1,791	1,800
親会社株主に帰属する 当期純利益(右軸)	733	941	1,127	1,164	1,170

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期の見通しは当該会計基準等を適用した後の数値となっております。



本資料に関するお問い合わせ先



経営企画部

TEL : 06-6539-4816

E-Mail : ir-info@eiwa-net.co.jp

URL : <https://www.eiwa-net.co.jp>

(注)この決算説明資料に記載されている売上高及び利益等の計画金額は、いずれも当社グループ会社の事業に関連する業界の動向についての見通しを含む国内及び諸外国の経済状況、並びに各種通貨間の為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因についての現時点での入手可能な情報をもとにした見通しを前提としています。これらは、市況、競合状況、新規取扱商品の導入及びその成否等、多くの不確実な要因の影響を受けるため、実際の売上高及び利益等は、この資料に記載されている計画とは大きく異なる場合があります。本情報及び資料の利用は、利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。